

対象学年: 第5学年以上

領域・単元等 「小数の倍」または「割合」

1. 作成の趣旨

児童にとって身近な動物を教材とし、その成長の様子(体重の変化)を小数の倍で表す学習を作成しました。2つの数量の関係を図に表したり、割合を求めたり、小数倍を用いた比較をしたりすることをねらいとしています。

【関連する学習指導要領の内容】

- 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。
5年[知識及び技能]A(3)ア(ア)
- 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。5年[思考力、判断力、表現力等]A(3)イ(ア)
- 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
5年[思考力、判断力、表現力等]C(3)イ(ア)

2. 活用場面等(例)

例1【小数倍の意味を確認する問題として】

〈啓林館 第5学年7月頃 東京書籍 第5学年7月頃〉

⇒活用後について

定着が不十分な場合には、日常の具体的な場面に対応させて、図と関連させながら小数の倍の意味を捉えさせるようにしましょう。

例2【単元終了後の定着の確認や「百分率」のレディネステストとして】

〈啓林館 第5学年11月頃 東京書籍 第5学年1月頃〉

⇒活用後について

「百分率」の単元においても、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を、図を基にして立式させるようにしましょう。

3. 「小数の倍」「割合」の授業の充実に向けて

- 何が「基準量」「比較量」「割合」なのかを理解できるようにするために、日常生活と関連させたり、数直線図に表したりすることで、具体的に「基準量」「比較量」「割合」をイメージできるようにしましょう。

例 ソフトボールの直径とドッジボールの直径、学校からある地点までの道のりなど、どちらを基準量と見るかで割合が変わってくることを想起させる、等

- 図で表した関係を式に表したり、式に表した関係を図に表したり、図や式の意味を言葉で説明したりしましょう。



どうして、 $350 \div 2.5$ という式にしたのですか？

生まれたときの体重を1とみると、生後1ヶ月の体重は2.5倍にあたります。だから、 $350 \div 2.5$ という式で、生まれたときの体重が分かると考えました。



- 「分からないこと」「困ったこと」を明らかにし、その解決に向かう学び合いを設定しましょう。